

# 第 1 学年 道徳学習指導案

男子17人 女子17人 計34人  
指導者 橋口 俊一

## 1 主題名 「お母さんの心」(4 - 家族愛)

### 2 主題のねらいとする価値

「家族愛」は子ども自身が強く望んでいる価値である。それが優れた形で現れたり、自分の身近にあることに気付いたりしたとき、子どもは感動を深め、家族愛についての自覚を深める。

そこで、本主題では、親の子どもに対する思いを取り上げ、自分の場合と重ね合わせて家族について考えさせていきたい。そこで得られる感動は、親の深い愛情を感じ、感謝する気持ちを高めていくことになる。

### 3 児童の実態

核家族化や少子化等の傾向が進み、現代の子どもたちは過保護に育てられていることが多い。そのため、親の深い愛情に気付かず、世話を受けていることを当たり前のことのように受け取ったり、欲求が満たされないとわがままを言ったりする。

そこで、親の本当の気持ちを考えさせることを通して、家族の深い愛情や、自分を支えている家族の存在に気付かせていきたい。そして、家族の大切さを理解させ、家族に対する感謝の気持ちや家族のために役に立ちたいという気持ちをもたせたい。

### 4 「心のノ - ト」との関連

子どもたちにとって、家族とのつながり、家庭は精神的な安定を促す基盤となっている。家庭での生活が満たされてこそ、子どもたちは温かい気持ちになり、安心して自分の持ち味を発揮できるのである。したがって、自分と家族とのかかわりを見つめ直し、家族の大切さについて考えることは、感謝する気持ちをもちながら、よりよく生きていこうとする心をはぐくむことになる。

1・2年生用「心のノート」の『かぞくが大すき』(P.66~P.69)では、これらのことを踏まえ、家族一人一人の温かい愛情に気付かせたり、家族の一員として役に立っている喜びを感じさせたりできるような内容となっている。

この「かぞくが大好き」について事前に話し合い、書かれたことを道徳の時間に生かすことによって、主人公と自分を重ね合わせ、主人公の気持ちに共感させながら、「家族愛」についての考えを深めることができると考える。

「心のノート」の事前の話し合いとしては、P.66~P.67で、日常的な生活を振り返り、毎日の家族との触れ合いを見つめ直させる。そして、自分を支えてくれている家族の存在や深い愛情に気付かせ、家族に対する感謝の気持ちを心に深く受け止めさせる。また、P.68では、自分の経験と照らし合わせながら読ませ、そのときの心地よい気持ちに十分共感させる。そして、P.69の中で、家族の人に書いてもらった出来事やそのときの気持ちに触れさせ、家族のために役立っている自分に喜びを感じることができるようにする。

### 5 他の教育活動との関連

生活科「わたしのかぞくおしえるよ」の学習では、家族の構成や特徴、自慢等を調べて発表する。また、「じぶんですること できること」では、家族が自分のためにしてくれている出来事を調べた上で、自分でできることを考える。

これらの一連の学習を通して、自分たちが楽しく生活できるのは、家族に支えられていることや、自分が深い愛情を受けていることに気付かせていきたい。そして、この愛情がとても温かくて心地よいものであることを十分感じ取らせていきたい。

### 6 資料

(1) 資料名 「ぎんの しずく」(光文書院1年)

(2) 資料の概要

星が「一番いいお母さんに銀のしずくを落としてあげよう。」と思いながら、窓をのぞいて回る。

泣いている赤ちゃんを抱きながら子守歌を歌っているお母さん，子どものほころびた着物を縫っているお母さん，子どもを叱っているお母さん，その他にもたくさんのお母さんを見て回った。なかなか一番いいお母さんを決めることができず，結局，どのお母さんにも銀のしずくを落とすのである。

(3) 本時での「心のノート」の活用

本資料では，子どもたちが子どものことを思う母親の気持ちにどれだけ気付くことができるかが活用のポイントとなる。そのために，導入で，「心のノート」P.66～P.67を活用する。具体的には，「家族っていいなと思うのはどんなときかな。」を日常生活の中から思い起こさせながら，自分を支えてくれている家族の存在やよさに気付かせていく。このような活用をすることで，本資料で深めていくお母さんの気持ちを考えるきっかけになるであろう。

7 本 時

(1) ねらい

母親の気持ちを考えることを通して，母親が子を思う優しい心に気付き，家族に感謝し，家族のために役に立とうとする気持ちをもつ。

	展開の概要	予想される児童の反応	指導上の留意点
導 入	1 「家族」との触れ合いについて見つめ直す。	<p>家族っていいなと思うのは，<u>どんなときですか。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病気のお世話をしてくれるとき</li> <li>・ 誕生日のお祝いをしてくれるとき</li> <li>・ 本を読んでもらったとき等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「心のノート」(P.66)をもとに話し合わせ，日常生活の中から，自分の家族の存在やよさに気付かせる。</li> <li>・ 家族の自分に対する気持ちに子どもの意識を焦点化する。</li> </ul>
展 開	<p>2 資料を読んで，「お母さん」の気持ちについて考える。 子守歌を歌っているお母さんについて</p> <p>着物を縫っているお母さんについて</p> <p>子どもを叱っているお母さんについて</p> <p>3 星が銀のしずくをすべてのお母さんに落とした理由について考える。</p>	<p>子守歌を歌っているお母さんは，<u>どんな気持ちでいるでしょう。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大きくなってね。</li> <li>・ 元気な子に育ってね。</li> <li>・ かわいいな。など</li> </ul> <p>着物を縫っているお母さんは，<u>どんな気持ちでいるでしょう。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どものために，がんばらなくては。</li> <li>・ きれいな服を着せてあげたい。など</li> </ul> <p>子どもを叱っているお母さんは，<u>どんな気持ちでいるでしょう。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ わがママをしてはいけない。</li> <li>・ 体をこわしてしまう。など</li> </ul> <p>星は銀のしずくを<u>どのお母さんにも落としたのはなぜでしょう。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ どれもいいお母さんだから。</li> <li>・ どれも子どものためを思っているから。など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料は，紙芝居で語り聞かせるように提示する。</li> <li>・ 母親の子どもに対する献身的な気持ちを十分味わわせる。</li> <li>・ それぞれの場面の絵を提示し，母親の表情に注目させながら考えさせる。</li> <li>・ 自分の親も同じ気持ちだということを実感させる。</li> <li>・ どの母親も我が子に対する深い愛情をもっていることに気付かせる。</li> </ul>
終 末	3 保護者からの手紙を読む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ いつも自分のことを思ってくれているんだ。</li> <li>・ いつもありがとう。等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 親の温かい気持ちを十分感じ取らせ，余韻を残す。</li> </ul>

(2) 評価の観点

家族の温かい思いを感じることができたか。

自分の経験と重ね合わせて考えたり，感じたりすることができたか。